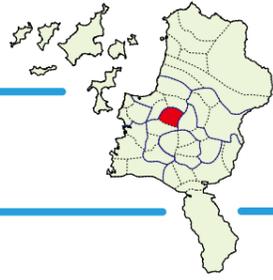


しみず 清水地区

人口: 22,556人(高齢化率26.5%)
世帯数: 13,359世帯



【地区の特色】

清水地区は、六つの小・中・高・大学がバランス良く配置された文教地区であり、加えて松山城の築城最高責任者であった足立重信の墓所、そして日露戦争で捕虜となったロシア兵を温かく迎えこの地で亡くなられた方を手厚く葬っているロシア兵墓地がある。放浪の俳人山頭火の終の住処となった一草庵を始め、由緒ある神社仏閣等の文化遺産も数多くあり、まさに躍動する新しい町と歴史の町がうまく融和し発展している地区である。



一草庵



【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> ・いきがい交流センターしみずに拠点があるため民生委員・児童委員や地域包括支援センターとのつながりが強い ・清水公民館や清水ふれあいセンターの催し物が多く地域の人々が参加しやすい ・小、中学生の登下校の見守りができている ・水がきれい ・各組織の協力体制ができている ・自主防災意識が高い ・地域福祉サービス事業などの助け合い活動が盛ん ・空き家の改修が進んでいる ・ボランティア活動が活発 ・大学生の地域行事への参加 ・ゴミステーションの担当割等のルールが整備され、ゴミ出しのマナーが改善されている
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・マンションも多く隣人との付き合いが少なくなっている ・組織役員(町内会長等)の担い手不足 ・町内会の行事が少ない ・坂が多い区域がある ・交通の不便な区域がある ・一部地域にはスーパーがないところがある
福祉課題	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者、独居高齢者の増加 → 住民の高齢化(地域でお世話する方の減少) ・短期居住者(大学生)との関係性が希薄 ・交通の不便な区域がある ・買い物に不便な地域がある ・移動スーパーの必要性が高まる ・認知症高齢者の対応 ・見守りが必要な世帯の増加 ・エリアによっては子どもの減少が見られる ・組織役員の担い手不足 ・ゴミ出しが難しくなる ・働く場所が少なくなる

清水地区社会福祉協議会 ささえ合う 福祉のまちや 清水の輪

<拠点> 松山市清水町3丁目15番地 清水小学校北校舎2階 TEL / FAX: 089-916-9179

構成団体	地区民協・町内会連合会・公民館・高齢クラブ連合会・女性防火クラブ・PTA まちづくり協議会・自主防災組織・子ども会
主な取り組み	活動内容
ふれあい教室(7教室)	60歳以上の方を対象とした趣味活動の場であり、交流を通じて住民同士の助け合い活動に繋がっています。(コーラス、絵手紙、書道、太極拳、茶道、英会話、フォークダンス)
地域住民と小学生との交流	一緒に給食を食べたり、もちつきや昔の遊びを“地域の名人”の高齢者に学んだりして小学校の各学年との交流を促しています。
福祉講座の開催	頭や身体を使った体操やワークショップを取り入れるなど、年2回テーマを話し合って開催しており、福祉だよりにて周知啓発しています。

しみず祭(4月)

毎年4月の第3日曜日に、いきがい交流センターしみず及び清水小学校を会場として「しみず祭」が開催されています。ふれあい教室の発表やうどん、おはぎ、コーヒーなどの提供、高齢者と子どもたちによるステージ発表など関係団体・地域の皆さんのご協力もあり、毎年500名を超える来場者が交流を深めています。



<地区社協が目指すもの>

清水地区は他地区同様、今後想定される少子高齢化・人口減少を最優先課題として捉え、地区内の各種団体との連携を図り、地区の特性でもある学生が多く住む街、新興のマンションや集合住宅の増加という問題に対し、住民同士の連携、コミュニケーションの強化を真剣に考えていきます。そして「歴史と文化と自然のまち清水」に住んで良かったと言える地域づくりを目指し、「いきがい交流センターしみず」に拠点を置く清水地区社会福祉協議会が、地域の交流の場・コミュニティの場となることを願います。

地区の状況	■地区民協	48名	■町内会・自治会・区長会等	88団体
	民生委員		■高齢クラブ	5クラブ
	主任児童委員		3名	■子ども会
	■まち協の設立	平成27年度	■自主防災組織	36組織

清水地区は小学校、中学校、高校、大学など多くの教育施設が立ち並ぶ文教地区です。そのため学生層の住民が多く今後の人口減少や高齢化を鑑み彼らを巻き込みながら地域福祉活動を推進していくことが重要といえるでしょう。そうした観点から考えると「しみず祭(4月)」は、地域住民や関係団体が連携して開催することで、これらの活動を通して若い世代が地域の文化を理解し、また世代を超えた相互理解の場であり人間関係の形成の場ともなっていることでしょう。「しみず祭(4月)」を含めた様々な活動を維持し発展させることにより、地域住民の連帯や地域のアイデンティティを醸成することにもなるでしょう。



